

**練習方法や教材を工夫することで、自然に正しい発音ができるようになり、
日常会話への般化につなげるための授業**

ことばの教室（言語障害）通級指導教室 自立活動学習指導案

指導者 須田 麻称美

1. 題材名 ^キ[ki]を 正しく 言おう

2. 題材について

(1) 子どもの実態と指導経過 3年生（1年生週2回、2・3年生週1回通級）

①発音（新版構音検査）

（1年生5月）

・^キ[ki]^ギ[gi]音、^ケ[ke]^ゲ[ge]音が歪む。（側音化構音）

・^サ[sa]^ス[su]^セ[se]^ソ[so]音が[ツァ][ツ][ツェ][ツォ]音、^ザ[za]^ズ[zu]^ゼ[ze]^ゾ[zo]音が[ジャ][ドゥ][デ][ド]音、[シ]音が[チ]音に置換することがある。構音検査では改善しているが、日常会話の中で誤ることがある。

（3年生4月）

・^キ[ki]^ギ[gi]音が歪むことがある。（側音化構音）会話の中でも正しく言えることが増えている。

・^ケ[ke]^ゲ[ge]音が歪むこと、^サ[sa]^ス[su]^セ[se]^ソ[so]音が[ツァ][ツ][ツェ][ツォ]音、^ザ[za]^ズ[zu]^ゼ[ze]^ゾ[zo]音が[ジャ][ドゥ][デ][ド]音、[シ]音が[チ]音に置換することは改善している。

②弁別

・誤っている音の他者弁別（他者の発音で正しい音と誤り音を聞き分けること）が文レベルででき、自分の発音を聞き分ける力（自己弁別）も育ってきている。

③その他

・学習能力が高く、ことばの教室で練習した内容もよく定着している。

・発音への困り感はないが、通級への意欲は高く、自分から進んで教室に来ることができる。

・ことばの教室では、学校や家庭での出来事などについて積極的によく話す。

(2) 題材観

本題材は、特別支援学校学習指導要領「自立活動」の内容に基づいて設定した。

目標 個々の児童又は生徒が自立を目指し、障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服するために必要な知識、技能、態度及び習慣を養い、もって心身の調和的発達基盤を培う。

内容 2 心理的な安定

（1）情緒の安定に関すること。

（3）障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関すること。

内容 6 コミュニケーション

（2）言語の受容と表出に関すること。

本児は^キ[ki]^ギ[gi]音、^ケ[ke]^ゲ[ge]音を発音する時、舌が硬口蓋のほぼ全面に接触し、呼気が舌の正中ではなく両側からもれて歪む様子が見られることから、側音化構音であると考え指導を行ってきた。

^ケ[ke]^ゲ[ge]音の側音化構音については、基本である「平らな舌」を練習して習得し、^キ[ki]^ギ[gi]音の発音練習に取り組む中で、効果が波及して改善した。

発音指導では、平らな舌の形を保持しながら母音^イ[i]音を正しく発音する練習から取り組み、1年生の3月末には習得した。2年生の4月から母音^イ[i]音に息の^ク[k]をつけて^キ[ki]音を導く練習を始め、順

調にステップを進み、2年生末で2語の句（例：黄色い きつね）まで正しく発音できるようになった。3年生では2～3語以上の句の練習から始め、短文、2文以上の長文と練習を進めてきた。本時では絵本の音読で正しく発音する練習に取り組む。

（3）指導観

本児はことばの教室で練習を始めると、[ki]音への意識が高まり、その時間で目標にしている練習の課題はほぼ確実に達成することができる。また教科書の音読など、先の練習段階の課題でも、自分で気を付けて正しく発音できることが多い。日常会話など発音に意識が向きにくい場面でも正しく発音できることが増えているが、完全な般化にはまだ不安が残るため、手立てを講じていきたい。自分の発音に気を付けられること自体は評価しつつ、無意識でも正しい発音ができている状態も評価することで、日常会話での般化につなげていきたいと考える。

以上のような実態と指導の必要性から、本題材を通して以下のような手立てを取り、今年度末での終了を目指す。

①日常会話への般化につなげるための練習

本時での練習段階は、絵本や教科書等の文章の音読である。しかし、発音にあまり意識が向いていない会話の中でも正しく発音できるようにするため、授業の中でさいころトークやゲームなど、会話が必要な場面を多く設け、その中で[ki]音が正しく言えた際は即時評価を行い、日常会話での般化につなげたいと考える。意識して正しく発音する練習段階はあくまでも文章の音読のため、これからゲームやさいころトーク等の活動の中では、正しい発音を強くは求めないようにする。

②教材の工夫

日常会話での般化を目指すために、教材も自然と会話が必要になる物を本児に合わせて用意、作成する。授業の最初にテーマが書かれたさいころを振り、出た目に合わせて会話をするさいころトークを取り入れる。さいころは「好きな」「嫌いな」や、「生き物」「天気」など、[ki]音が含まれた単語が書かれたものを複数用意し、会話の中で自然と[ki]音をたくさん発音する環境を作りたい。ゲームタイムは、既製品と合わせて、本児用のオリジナルかるたも作成して使用する。これまでの句や短文の練習段階で、[ki]音を含む単語をバラバラに組み合わせて作った「おもしろ作文」の中から本児がお気に入りを選び、毎回少しずつ積み重ねてきた。それをもとに絵札と読み札を本児と一緒に作成し、オリジナルかるたとして活用する。既製品には既製品の良さがあるが、自分で取り組んだ練習が自分だけのかかるたになることで、練習への意欲につながると考える。

文章の音読においては、正しく読む必要感を高めるために、本児が実際に使用している国語等の教科書も利用する。音読の中でも段階を踏んだり、課題の[ki]音が多く含まれたりすることを考えて、下学年の教科書も活用したい。また、意欲や興味・関心の向上のために、本児が使用している教科書とは異なる会社の教科書を用意したり、読んで楽しいと思えるような詩集や絵本なども用意したりすることで、その中から本児が選び、主体的に練習できるようにしたい。

③振り返り等の工夫

本児はことばの教室に来ることへの意欲は高く、楽しそうに通級しているが、自分の発音の誤りに関しては通級当初からあまり困り感をもっていない。しかし、ことばの教室での学習を通して自分の発音方法が誤っていること、だから練習が必要だということはよく理解しており、何十回単位の練習にも進んで取り組んできた。その努力の積み重ねが実を結び、終了に向かえているということを実感できるように、普段から終了を見据えた言葉かけや評価をしていく。ことばの教室でだけ

でなく、通常学級での学習や生活の様子もできるだけ参観し、そこでできていたことも併せて評価することで、ことばの教室での学習と日常生活とがつながるようにしたい。

これまで学習の振り返りは、評価シールを貼ったり、本児の言葉を教員が代筆したりして行ってきた。しかし、本児は学力も高く、自分の気持ちや状況を言葉で表現することもよくできるため、できるだけ自分の言葉を自分で文字にして振り返りができるようにしたい。一文でも自分自身で書くことで、より達成感をもつことができると考える。はじめのうちは、教員が見本を示したり、単語や表現などを例示したりするなどのサポートを行って、本児の様子を見て書けるようにしていく。

3. 題材の目標

- 口舌の体操や弁別の練習に進んで取り組もうとしている。 【2 心理的な安定(1)(3)】
- 正しい^キ[ki]音と誤り音を聞き分けることができる。 【6 コミュニケーション(2)】
- 正しい^キ[ki]音を発音することができる。 【6 コミュニケーション(2)】

4. 全体指導計画(40時間扱い)

	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
						本時	20/40				
弁別	^キ [ki]音 → ・正誤弁別(他者:句→短文→長文～) ・自己弁別(単語～)										
発音	^キ [ki]音 → ・句(2～3語)→短文→長文(2文以上)→音読(絵本・教科書等)→会話(テーマトーク・通常) ・般化につなげるための練習(かるた等のゲーム・さいころトークなど)										

※児童の様子に応じて口や舌の体操を行い、口舌の状態を確認するようにする。

5. 本時の指導(20/40)

(1) 目標

- 弁別や発音の練習に進んで取り組もうとしている。 【2 心理的な安定(1)(3)】
- ^キ[ki]音について、自分の発音の正誤を聞き分けることができる。 【6 コミュニケーション(2)】
- 絵本の音読で^キ[ki]音を正しく発音することができる。 【6 コミュニケーション(2)】

(2) 展開

時配	学習活動と内容 ◎教師の発問 ・子どもの反応	○教師の支援 ☆評価(方法)	資料
8分	1. 自由会話・さいころトーク 家庭や学校での出来事等について話す。 さいころを振って出た目のテーマに沿って話す。	○会話をしながら、本児のその日の発音状態をチェックする。 ○会話で ^キ [ki]音が正しく言えた際は、即時評価して日常会話での般化につなげられるようにする。	お話しさいころ
4分	2. 学習内容の確認 本時の内容を確認し見通しをもつ。 ① 耳クイズ(自己) ② ^キ [ki]音の練習(音読) ③ ゲーム(かるた等)	○見通しをもって取り組めるように、本時の学習内容をホワイトボードに提示しながら一緒に確認する。 ○山登り表を見ながら本児が自分でめあてを決められるように導く。	ホワイトボード 学習カード 山登り表

④ 振り返り		
絵本の音読で正しく [*] [ki]を言おう！		
5 分	3. 耳クイズ（音の弁別） 自分の発音する [*] [ki]音の正誤を聞き分ける。	○弁別が正しかったか、即時評価で伝える。 ☆ [*] [ki]音について自分の発音の正誤を聞き分けることができたか。（観察）
1 1 分	4. [*] [ki]音の練習（絵本の音読） 絵本を選び、文中の [*] [ki]音に気を付けながら音読する。 ◎どうすれば、音読で正しく [*] [ki]と言えるかな。 ・ [*] [ki]が出てきたら舌の形に気を付ける。	○文中に [*] [ki]音がよく出てくる絵本を数冊用意し、本児が自分で選んで練習に取り組めるようにする。 ○ [*] [ki]音に気を付けて音読すること、歪んでも自分で気づいて言い直せば良いこと、気づけず教員に指摘されたら言い直すことを確認して練習する。 ○基本的には初見の状態で音読するが、本児の発音の様子を見て、先に文章中の [*] [ki]音をチェックしてもよいことを提案し選んで取り組めるようにする。 ☆音読で正しく [*] [ki]音を発音することができたか。（観察）
1 2 分	5. お楽しみタイム かるた等、自分で選んで教員と取り組む。	○発音の正しさを強くは求めないが、ゲーム内の会話等で [*] [ki]音が正しく言えていた時は評価し、般化につなげる。
5 分	6. 振り返り 本時についてめあてをもとに振り返り、自己評価する。 次回の予定を確認する。	○本時全体の自己評価を行い、受容して取り組みを評価するとともに、次時への意欲につなげる。 ☆練習に進んで取り組もうとしていたか。（観察）

【参考文献】 「わかりやすい側音化構音と口蓋化構音の評価と指導法 舌運動訓練活用法」 山下由香里・武井良子・佐藤亜紀子・山田紘子 （2020）学苑社